



あげしお

令和5年8月31日

鷹南学園

三鷹市立第五中学校

校長 鶴崎 靖二

◇学校教育目標◇

- ・進んで考える人
- ・情操豊かな人
- ・心身ともに健康な人

～「あげしお」物事の勢いが盛んになることを意味し、生徒が勢いよく活躍するという思いを込めて～

ホームページ <http://www.mitaka-schools.jp/gochu-jhs/>



学校HPリンク

「夏の終わりに思うこと」

校長 鶴崎 靖二

8月24日(木)の日経新聞の「春秋」に、こんなコラムがありました。

夏休みがもうすぐ終わる。すでに授業が始まった地域もある。級友との再会を待ちわびる笑顔の一方、カレンダーを横目に漏れるため息もあろう。この時期、自ら命を絶つ子どもが増えるという。学校だけが理由ではないかもしれぬが、「楽しく生活する場」が見つからなかった末の選択だとすれば、なんともやりきれない。

後年、ラジオの電話相談でたくさんの子供からの「なぜ」に答えた無着先生は「平成に入ったころから質問がつまらなくなった。」と憂い、その原因は正面から子供に向き合おうとしない親や教師にある、と説いた。少しだけ腰をかがめ、小さなSOSや疑問に耳を傾けたい。大人に与えられた夏の大切な仕事だ。

『日経新聞8月24日版「春秋」より抜粋』

新聞のコラムは、あくまでも個人的な分析や意見、エッセイ等であるので、すべてをそのまま丸呑みするわけではないが、まったく的外れなことが書かれているかというわけでもない。時に立ち止まって考えさせられる話もある。受け取る側の心次第というところだろう。

無着先生がなぜ「質問がつまらなくなった原因が、子どもに正面から向き合おうとしない大人(親や教師)にある」と感じたのか、ここには根拠が示されていないので、一概に否定も肯定もできない。

しかし、「大人が少しだけ腰をかがめ、小さなSOSや疑問に耳を傾けること」は、子どもが身近な大人に相談しやすい環境づくりとして、とても大切なことだと思うのです。

このコラムを読んで、私たち大人の「あるべき姿勢」として、改めて感じました。

臨任の先生が着任いたしました

本校職員の後藤ひばり(理科・2年)、高橋 香(社会・1年)、普光江 真有(社会・E組)が産休・育業に入るため、2学期から臨時的任用代替教員として、3名の先生が着任しました。保護者の皆様にご挨拶申し上げます。

この度、後藤先生の代わりに着任した波多野良一と申します。生徒と関わり合い、ともに成長できることをとてもうれしく思います。これからお世話になりますが、よろしくお願ひいたします。

波多野 良一(2年・理科)

今学期より1年生と3年生の社会科を担当させていただきます。生徒のことを第一に考え、私自身も修養と研鑽に励みながら日々を大切に過ごしていきたいと思ひます。まだまだ未熟ではございますが、よろしくお願ひいたします。

高崎 日花里(1年・社会)

はじめまして。2年生E組担任をさせていただきます、近藤直美です。みなさまにとって、楽しくて、濃い中学校生活になるようにサポートさせていただきますと思ひております。どうぞよろしくお願ひ致します。

近藤 直美(E組・社会)